

地域別検討協議会学区別検討資料(オホーツク西学区)

オホーツク西学区高校配置計画の見込み

区 分	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	R 13 (2031)	令和7～13 (2025～2031) 年までの 増減	令和10～13 (2028～2031) 年までの 増減
学区内中卒者数	400	379	419	422	373	384	376	317	▲ 83	▲ 105
対前年増減	▲ 23	▲ 21	+ 40	+ 3	▲ 49	+ 11	▲ 8	▲ 59		
紋別市中卒者数	(131)	(113)	(136)	(146)	(114)	(131)	(126)	(96)	▲ 35	▲ 50
対前年増減	▲ 12	▲ 18	+ 23	+ 10	▲ 32	+ 17	▲ 5	▲ 30		
学校名	令和6(2024)年度の 学科及び募集学級数 普通 職業 計			R6 (2024) 欠員	令和7(2025) 年度	令和8(2026) 年度	令和9(2027) 年度の見通し	令和10(2028)～13(2031)年度までの見通し	摘要	
単 遠 軽	5		5	35			0～1学級 に相当する 中卒者の増	4年間で2～3学級に相当 する中卒者の減	興部、雄武の協力校 再編整備留保 R6(2024)第2次募集 後学級減	
(遠 軽)	(1)		(31)							
紋 別	3	商 1 工 1	5	80						
地 興 部	1		1	24						
地 雄 武	1		1	21						
中 湧 別	2→1		1	9						
5校	12→ 11	2	13	169						

注1 学科種別の「普通」には、普通科のほか、総合学科、理数、外国語、体育等の専門学科を含む。

注2 学校名の「単」は単位制、「総」は総合学科、「フ」はフィールド制、「中高」は連携型中高一貫教育校、「地」は地域連携校。

注3 () は定時制課程。

注4 令和6(2024)年度募集学級数の「→」表示は、第2次募集後の学級減を実施したことを示す。

学区の検討事項と現状・課題

学区の検討事項	現状・課題
○中卒者数の増減に対応しながら、多様な学習ニーズに応える高校配置の在り方	<ul style="list-style-type: none"> 令和9(2027)年度の定員調整等の検討に当たっては、3人の中卒者数の増のほか、市町ごとの中卒者数の状況、欠員の状況なども考慮した検討が必要 令和10(2028)年以降については、令和13(2031)年までに学区全体で105人の中卒者数の減が見込まれることから、学区全体での高校配置の在り方の検討が必要 欠員が40人以上生じている学校について、定員を含む学科構成の在り方について検討が必要
○地域連携校の導入	<ul style="list-style-type: none"> 第1学年1学級の高校のうち、地理的状況等から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、地域連携校に位置付け、遠隔システムを活用した教育環境の充実や、地域と連携した高校の魅力化等により、可能な限り存続を図ることが必要
○地域の取組を勘案した特例的取扱い	<ul style="list-style-type: none"> 地域連携校について、5月1日現在の第1学年の在籍者数が2年連続20人未満となった場合は、道教委が所在市町村をはじめとした地域と連携し、高校の特色化・魅力化、入学者確保に取り組む集中取組期間を設けた上で、再編整備の留保が必要 既に再編整備が留保されている高校についても同様に集中取組期間を設け、入学者確保に取り組むことが必要
○定時制課程について	<ul style="list-style-type: none"> 5月1日現在の第1学年の在籍者数が3年連続で10人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、定時制課程の配置状況を考慮しながら、再編整備の検討が必要